

国立病院機構熊本医療センター

くまびょうNEWS



本年もどうぞよろしくお願ひ致します。
謹賀新年



写真撮影 江角 誠

【特集】

新年のご挨拶

- 開放型病院運営協議会
- VOICE
- くまびょう TOPICS
- 国立病院機構熊本医療センター医学会プログラム
- 医学シリーズ 放射線科
- いま、何が研究されているか 事務部企画課
- 研修医レポート
- 研修のご案内
- 研修日程表

基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、
良質で安全な医療を目指します。

運営方針

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1. 良質で安全な医療の提供 | 4. 教育・研修・臨床研究の推進 |
| 2. 政策医療の推進 | 5. 国際医療協力の推進 |
| 3. 医療連携と救急医療の推進 | 6. 健全経営 |

患者様の権利

1. 良質かつ適切な医療を公平にうける権利があります
2. ご自身の医療について理解しやすい言葉と方法で十分な説明と情報を受ける権利があります
3. 病院から説明と情報を得た上で、自らの意志で治療を受け、あるいは選択し、拒否する権利があります
4. 自分の診療記録の開示を求める権利があります
5. セカンド・オピニオンを求める権利があります
6. 個人としての人格の尊重とプライバシーの保護を受ける権利があります

新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。

昨年中は登録医の先生方をはじめ、医師会および歯科医師会の皆さまには、多大なるご支援をいただき、誠にありがとうございました。

当院には、救命救急センターと地域がん診療連携拠点病院という2つの大きな使命がございます。ご紹介いただきました患者さまのご希望に添った、最善の診療を提供して行きたいと考えています。

救急医療では、「24時間365日、断らない救急医療」をスローガンに、救急車・救急ヘリの受入れはもちろん、ご紹介いただいた患者さまへの、迅速で正確な診断と治療を心がけています。



院長

高橋 毅

がん診療では、できるだけ低侵襲な内視鏡手術、家から通える外来化学療法、ピンポイントな放射線治療、さらにこれらの治療を組み合わせ、患者さまに寄り添った優しい診療を心がけています。

今年も、この2つを当院の大きな柱として、登録医の先生方、地域の医療機関の皆さまと共に熊本県の医療に貢献できますよう努力してまいります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。



看護部長

泉 早苗

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、病院機能評価受審、電子カルテリプレイスと大きなイベントを全職員で一丸となって取り組むなか、当院を支援してくださっている地域の皆様方との絆の深さを再認識した一年でした。

また、熊本初となる看護師特定行為研修施設の指定を受けるべく準備をまいりましたので、今年はその実現に向け後一步を踏ん張り、力を溜め込んだイノシシのごとく、研修生の受け入れ、研修の実施、卒業生の輩出と邁進してまいりたいと存じます。

熊本で暮らす地域の皆様のために、それを支える地域医療の関係者の皆様とさらに連携を深め、共に歩んでまいりたいと思いますので、今年も何卒よろしく願いいたします。



事務部長

植松 裕

新年あけましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。昨年中は大変お世話になりました。本誌面をお借りして、御礼申し上げますと共に本年もどうぞ宜しくお願い致します。

さて、本年の干支は「亥」であり、自分の干支でもあります。「亥」は「猪突猛進」という言葉もありますが、今年は何事にも慎重に俊敏に物事を推し進めて参りたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。

また、本年は「病院増改築工事」の竣工も控えており、安全に円滑に進めたいと思っております。なお、工事期間の延長により、皆様方にはご不便をおかけ致しますこと、お詫び申し上げます。

最後に、本年が皆様方にとって、良い年となりますようにお祈り致します。

平成 30 年度 第 2 回 開放型病院運営協議会が開催されました

12月5日(水)、当院会議室にて今年度第2回目の開放型病院運営協議会が開催されました。協議会には、外部委員の熊本市医師会会長の園田寛先生(当協議会委員長)、同医師会副会長の田中英一先生にご出席いただきました。高橋院長の開会挨拶、園田委員長のご挨拶に続き議事に入りました。

議事は事務局より地区別登録医数、開放型病院共同指導実績、くまびょうニュースの発行状況についての報告がありました。続いて開放型病院連絡会の開催について協議を行い、その結果平成30年度第2回開放型病院連絡会を、平成31年2月23日(土)午後6時30分より、当院地域医療研修センターホールにて開催することを決定しました。

第2回開放型病院連絡会は、総会と特別講演の2部構成となっています。総会では、症例提示、地域医療連携室及び紹介予約センターからのお知らせを予定しています。総会終了後、引き続き特別講演を行います。今回の特別講



演は、厚生労働省医政局医療経営支援課長 樋口 浩久先生にご講演を頂きます。

当院もさらに内容の充実に努めて、地域の医療機関の皆さまと連携強化を図りたいと考えています。どうぞ医師、メディカルスタッフ、看護師、MSW、事務職他多くの皆さま方のご参加を賜りますようお願い申し上げます。

(管理課長 福田 信也)

平成 30 年度 第 2 回 開放型病院連絡会のご案内

日時：平成 31 年 2 月 23 日(土) 午後 6 時 30 分～ 8 時 30 分

場所：国立病院機構熊本医療センター(2階 地域医療研修センター)

— 内容 —

(1) 開放型病院連絡会総会

- | | | |
|--------------------|-----------|-------|
| 1) 症例の呈示 | 歯科口腔外科部長 | 中島 健 |
| | 救命救急センター長 | 原田 正公 |
| 2) 地域医療連携室からのお知らせ | 地域医療連携室長 | 渡邊健次郎 |
| 3) 紹介予約センターからのお知らせ | 地域医療連携副室長 | 菊川 浩明 |

- | | | |
|----------|-------------------|----------|
| (2) 特別講演 | 厚生労働省医政局 医療経営支援課長 | 樋口 浩久 先生 |
|----------|-------------------|----------|

【連絡先】国立病院機構熊本医療センター管理課 電話 096-353-6501 内線 2311(福田・毛利)

地域医療連携室より新年のご挨拶を申し上げます



旧年中は大変お世話になりました。ありがとうございます。

本年も切れ目の無い連携に努めて参りますので、どうぞよろしく願いいたします。

地域医療連携室一同



VOICE

登録医の声

医法) 社団 東陵会
戸山・横田医院

院長 横田 元



◆貴院のアピールをお願いします

1978年に戸山忠良が開院し、主に外科、内科、胃腸科として診療してきましたが、2012年より皮膚科(日本皮膚科学会専門医・横田美樹)を新設。2018年4月より新たに内科(日本内科学会総合内科専門医・横田元)を開設し、内科・皮膚科・外科の診療を行っています。

在宅療養支援診療所ですので、訪問診療も随時可能です。病院の通院が困難な方は是非ご相談ください。内科だけでなく、外科・皮膚科も往診しております。

◆先生の趣味・お勧めスポットを教えてください

趣味は読書とランニングです。

読書は生命科学、歴史などのノンフィクションを好んで読みます。週末に図書館に行くのを楽しみにしています。

ランニングは東区の健軍川周辺を早朝ランニングしています。

お勧めスポットは、子供達とよく行く東区の県民総合運動公園です。とても広く、多彩な遊具があって1日楽しめます。特にレンタルサイクルは子供達の自転車の練習に最適です。



◆当院へのご要望をお聞かせ下さい

いつも早く救急患者さんを受け入れて頂きありがとうございます。退院後の患者さんの受け入れを積極的に行うことで、かかりつけ医として地域医療の一翼が担えるよう努力して参ります。

また地域の開業医向けの様々な勉強会は、最新の医療に広く触れることができるので、毎月楽しみにしております。今後とも宜しくお願いします。

【診療科目】

内科・皮膚科・外科・訪問診療

【診療時間】

平日：午前8時30分～午後6時
(皮膚科のみ火曜・木曜の午後は休診)
土曜：午前8時30分～午後1時

【休診日】

土曜午後 日曜 祝日

※時間外の急患の方は電話でご相談下さい。

医師に転送されます。

【住所】

〒862-0933 熊本市東区小峯 2-5-33

【TEL】

096 - 365 - 2222

地域医療連携室直通電話をご利用下さい

先生方には日頃より患者様の御紹介を頂きありがとうございます。

当院は、地域医療連携室へのお電話が繋がりにくいのご指摘を受け、直通電話を設置致しております。

この直通電話は、関係医療機関の皆様から頂くお電話のみをお受け致します。患者様からの直接のご相談は、代表電話を通じて承る予定です。

医療機関の皆様のための直通電話になります。ホームページ等では公表いたしておりませんので、ご了承下さい。今後ともよろしくお願い申し上げます。

地域医療連携室長 渡邊健次郎

地域医療連携室直通電話

096 - 353 - 6693

月～金(祝日を除く) AM 8:30 ~ PM 17:00



11月6日

泌尿器科患者会「ひまわり会」開催

泌尿器科尿路変更術患者会『ひまわり会』を開催し、例年より多い約50名の患者さまご家族が参加されました。ひまわり会は平成7年に発足し、年2回開催しています。今回は、ストーマ装具の変更における注意点の講義を行い、その後メーカー4社より製品紹介を行いました。メーカー毎のブースを設置し、手にとって商品を見ることができました。また、グループ毎にディスカッションを行い、悩みを話したり、解決策を教えたりなど、患者様同士で活発な意見交換ができ有意義な会となりました。今後も患者様のニーズに沿った会を運営していきたいと考えています。



5階西病棟 看護師

城川 莉奈

Rina Shirokawa



11月10日

「第28回 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会」RST（呼吸ケアサポートチーム）受賞報告



『日本呼吸ケア・リハビリテーション学会』にシンポジストとして参加しました。「当院におけるRST活動の現状と課題」という演題で、呼吸器装着期間や患者の転帰を調査して統計解析した結果、死亡率に影響を及ぼす要因について報告しました。光栄なことに、優秀演題賞を頂くこともできました。今後も人工呼吸療法を受ける患者様が、合併症を起こすことなく、安全に呼吸器からの早期離脱が図れるように多職種チームで介入していきたいと思えます。

集中ケア認定看護師

前川 友成

Tomonari Maekawa



平成30年度

事務局

「ボランティア委員会」開催



11月27日(火)に、ボランティア参加者4名を含めた『ボランティア委員会』を行いました。皆さんお揃いの病院ポロシャツを着用されご出席いただきました。最初に、高橋院長より「長年にわたりボランティア活動をしていただき大変感謝しております。」と挨拶をされました。その後の意見交換では、ボランティア活動中の体験談や困ったこと、気付いたことなどの意見を頂きました。また、入院中のがん患者さんを対象にした縫い物教室などの開催に向けたご提案も頂きました。職員一同大変感謝し、今後の病院運営に繋げて参りたいと思っております。今後とも引き続きボランティア活動をよろしくお願いいたします。

庶務班長

毛利 安則

Yasunori Mourii



検査科では、超音波検査の研修を受け入れています



▲松元臨床検査技師(左)と、阿蘇温泉病院の犬塚臨床検査技師(右)

生理検査センターでは心臓及び血管超音波検査を行っています。昨年は他施設から4名の検査技師が、超音波検査の技術習得を目的に研修にられました。また、2月からは九州グループ特定技能派遣研修で、4名受け入れる予定です。今後も知識と技術を向上させ、自施設のみならず、地域の検査技師の育成にもつながるよう努力していきたいと思えます。

生理検査室 臨床検査技師

松元 亜由美

Ayumi Matsumoto



臨床工学

「熊本県医療ガス安全講習会」参加報告



11月14日(水)に『熊本県医療ガス安全講習会』がグランメッセ熊本で開催され、参加いたしましたので報告します。医療ガスによる事故が毎年多数発生しています。このような状況を受け、医療ガスの安全管理を徹底するため、昨年9月に厚生労働省医政局長から「医療ガス安全管理について(医政発0906第3号)」が発出され体制

や医療ガスの点検時期、研修会の実施などが厳しくなりました。本講習に参加しそれらについて詳しく説明を受けてきました。当院での体制作りにフィードバックしたいと思います。

臨床工学技士長

田代 博崇

Hiroataka Tashiro



第24回 国立病院機構熊本医療センター医学プログラム

平成31年 1月19日 (土)

開会の辞

8:50~9:00

高橋 毅 (国立病院機構熊本医療センター院長)

一般演題Ⅰ「内科系・メディカルスタッフ部門」

9:00~10:00

座長: 武本 重毅 先生 (聚楽内科クリニック院長)

堂園千代子 (国立病院機構熊本医療センター医療安全管理係長)

- I-1 発熱で発症した血管内大細胞型B細胞リンパ腫の一例
血液内科¹⁾ 総合診療科²⁾ 生田源起¹⁾ 河北敏郎¹⁾ 辻 隆宏²⁾ 日高道弘¹⁾ 清川哲志^{1) 2)}
- I-2 右上顎洞に発生したPlasmablastic lymphoma (PBL) の一例
血液内科¹⁾ 耳鼻咽喉科²⁾ 長倉拓究¹⁾ 三井士和¹⁾ 河北敏郎¹⁾ 上村尚樹²⁾ 日高道弘¹⁾
- I-3 Dual energy CTの有用性
放射線診断科 根岸孝典
- I-4 ビスホスホネート (BP) 製剤休薬後の抜歯で、顎骨壊死を発症し、更に骨粗鬆症性椎体骨折を
起こした2例
歯科口腔外科 宮本悠基 谷口広祐 森久美子 清宮弘康 中尾美文 中島 健
- I-5 Snフィルタを用いた金属アーチファクト低減に関する基礎的検討
診療放射線科 井上信哉 中村空也 岩元優樹 米村政昭 古川則行
- I-6 線条体イメージングにおける最適な線減弱係数とGaussian filterの基礎的検討
診療放射線科 高倉清悟 米村政昭 古川則行

一般演題Ⅱ「脳神経科系・その他の診療科部門」

10:05~11:05

座長: 杉之原賢治 先生 (上代成城病院院長)

榊原チハル (国立病院機構熊本医療センター教育研修係長)

- II-1 気管切開術後患者の気管形成術における気道管理の経験
麻酔科 吉田芽以 坂本真由 岩崎伊代 宮崎直樹 古庄千代 瀧賢一郎
- II-2 シートベルト外傷による腎完全断裂
泌尿器科 二口芳樹 西澤秀和 鮫島智洋 銘苅晋吾 前田喜寛 陣内良映
菊川浩明
- II-3 当院における辺縁系脳炎の検討: 抗NMDA受容体抗体脳炎を中心に
神経内科 小阪崇幸 西 晋輔 天野朋子 幸崎弥之助
- II-4 FRONTAL SINUS REPAIR USING POLYMETHYL METHACRYLATE AFTER
BIFRONTAL CRANIOTOMY
脳神経外科 松浦 任 大塚忠弘 中川隆志 甲斐恵太郎
- II-5 急性期から看護師による早期リハビリテーションが奏功した1症例
5北病棟ICU 前川友成 渡邊 亮 竹下弘子
- II-6 当院における一期的両側全人工膝関節置換術 (TKA) 後の理学療法と患者満足度について
リハビリテーション科 三輪栄太郎 宮川恵輔 石原亮一 榮 彩人 手光文子 林田祐醒
金柿夏美 田中正則 福元哲也 橋本伸朗

一般演題Ⅲ「メディカルスタッフ部門」

11:10~12:10

座長: 江角 誠 (国立病院機構熊本医療センター臨床検査技師長)

樋口 和宏 (国立病院機構熊本医療センター企画課長)

- III-1 細胞診におけるLBC法の有用性
病理診断科 中本早希
- III-2 血清リチウム測定の院内導入に向けて
臨床検査科 上尾早紀 一瀬康浩 小村 綾 杜山麻美 原 和幸 江角 誠

Ⅲ-3 食事の質向上を目指して ～ひと手間プロジェクト～

院長¹⁾ 事務部長²⁾ 梅本保奈美³⁾ 北向由佳³⁾ 北村 渚³⁾ 福永麻希³⁾
栄養管理室³⁾ 今村美咲³⁾ 山下晶穂³⁾ 平江由里³⁾ 四元有吏³⁾
安田建物管理株式会社⁴⁾ 田村和耶⁴⁾ 脇坂将平⁴⁾ 高橋 毅¹⁾ 植松 裕²⁾

Ⅲ-4 多用途透析用監視装置の標準化透析量の精度と有用性の検討

臨床工学技士 松下尚暉 坂本真樹 清元 玲 久原亮希 森永良和 竹本勇介
田代博崇

Ⅲ-5 働き方改革の一環として「情報共有による業務の省力化について」

事務部企画課 田中崇子

Ⅲ-6 精神科診療における医師事務作業補助者の役割

統括診療部 竹下喜代美 片渕 茂 園田美樹 鈴谷文子 宇野克明 増田一樹
後藤純一 橋本 聡 山下建昭 清川哲志 渡邊健次郎

昼 食 (12:10~13:10)

一般演題Ⅳ「看護・教育部門」

13:10~14:00

座長：高木佳寿美（国立病院機構熊本医療センター附属看護学校教員）
福田 純子（国立病院機構熊本医療センター6西病棟看護師長）

Ⅳ-1 「わたしの記録」を用いた苦痛のスクリーニングシステム導入後のアンケート調査

看護部 緩和ケアリンクナース 藤島愛華 大平ちえみ 安永浩子 池田としえ

Ⅳ-2 閉鎖式薬物移送システム導入に向けた看護師教育の実際と効果

看護部 化学療法リンクナース 方尾志津 竹口真理子 藤戸邦子

Ⅳ-3 反復性誤嚥性肺炎患者へKTBC（KTバランスチャート）を活用した包括的支援を行うことで経口摂取できた1例

看護部 外来 田平佳苗

Ⅳ-4 当院における認知症患者への取り組み

看護部 7南病棟 志水直子

Ⅳ-5 A看護学校における社会人基礎力の実態

附属看護学校 増田佳奈

一般演題Ⅴ「救急・その他の診療部門」

14:05~15:05

座長：木下 博之（国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科医長）
三浦久美子（国立病院機構熊本医療センター6北病棟・CCU看護師長）

V-1 急性膀胱炎および低体温症を合併した糖尿病性ケトアシドーシスの一例

救命救急・集中治療部 池邊 壮 櫻井聖大 楯 直晃 江良 正 狩野巨平 山田 周
北田真己 山田成美 原田正公 高橋 毅

V-2 手術療法、放射線療法併用によるケロイド治療成績の検討

形成外科¹⁾ 放射線科²⁾ 大島秀男¹⁾ 東野哲志¹⁾ 上木原達哉¹⁾ 富高悦史²⁾

V-3 若年者の外傷性仙骨骨折に膀胱直腸障害を認めた2例

整形外科 島田真樹 橋本伸朗 福元哲也 前田 智 中馬東彦 松下任彦
平井奉博 田畑聖吾 谷村峻太郎

V-4 薬剤反応に乏しく治療に苦慮した粘液水腫性昏睡の1例

糖尿病・内分泌内科 大久保侑馬 木下博之 橋本章子 小野恵子
西川武志 高橋 毅

V-5 胆嚢捻転の二症例

消化器内科 岡本祐毅 浦田昌幸 上野茂紀 富口 純 久木山直貴
松山太一 石井将太郎 中田成紀 杉 和洋

V-6 胆嚢ポリープの経過中にみつかった胆のう癌と膵癌の一例

消化器内科 上野茂紀 杉 和洋

総評・閉会の辞

15:10

清川 哲志（国立病院機構熊本医療センター副院長）

最近のトピックス

放射線科医長

ね ぎ し たかのり
根岸 孝典

今年5月、CT装置がシーメンス社製 SOMADOM Driveに更新されました。2管球搭載型CT(従来は1管球)であるところが最大の特徴で、2種類の異なる管電圧で撮影することにより、これまでの形態診断を超えた多くの付加情報を得ることができます。

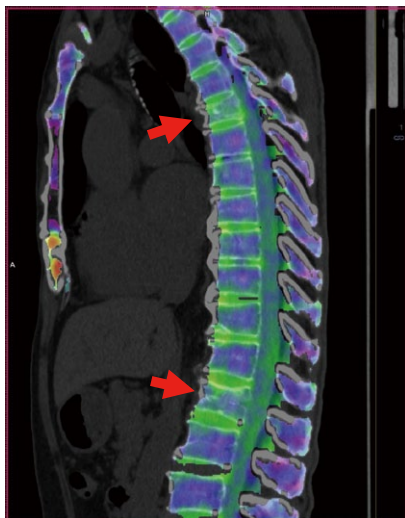
データ解析は、CT更新に併せて導入された、シーメンス社製の syngo.via というワークステーションを用いています。今回はこの場を借りて、syngo.via の複数のアプリケーションのうち、厳選して3つを紹介したいと思います。

* bone marrow imaging と lung PPV は、CT撮影時に『Dual energy mode』を選択して撮影をしないとデータ解析できません。通常は、依頼内容を見て判断いたしますので、CTをオーダーする際は“検査目的”をしっかりとご記入下さい。

① bone marrow imaging (図①)

従来はMRIで評価していた骨髄浮腫をCTでも評価することが可能となりました。骨折線が確認しにくい症例や、急性期の骨折か陳旧性かの判断に迷う症例、MRI撮影に制約のある症例など、様々な症例で有効なツールと思います。機会がありましたらお試しください。ちなみに造影剤は使用せず、単純CTで評価可能です。

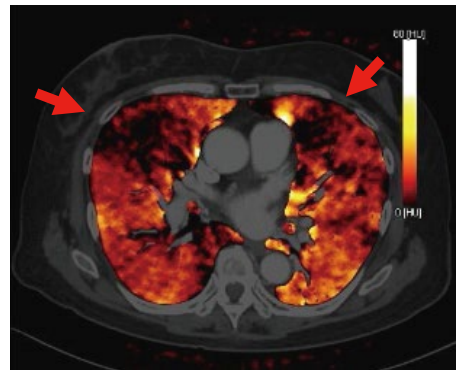
(図①)



② long PBV (図②)

肺実質における肺血流量の分布(ヨード造影剤分布)を表示することができます。従来、肺血流分布の評価は肺血流シンチグラフィで行っていましたが、肺血流シンチグラフィとほぼ同等の肺血流評価が可能であると報告されています。こちらは造影剤使用が必須です。

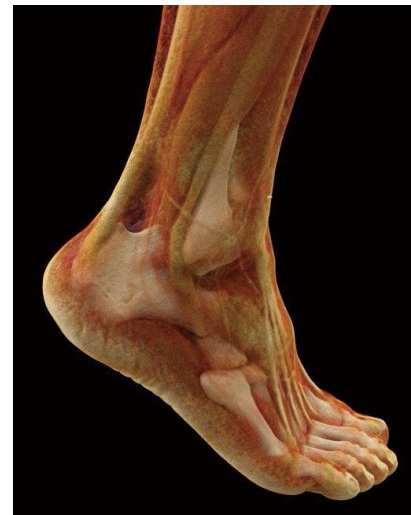
(図②)



③ cinematic VRT (図③)

複雑な反射光を使用することで、従来よりもリアリティのある3D画像を提供することができます。3D画像作成に特化したワークステーションと比較すると、機能面や操作性などでやや難があり、作成できる画像に制限がありますが、患者説明やプレゼンテーションの場面などで威力を発揮すると思います。興味がある際にはご連絡下さい。

(図③)



働き方改革の一環として「情報共有による業務の省力化について」

事務部企画課経理係長 田中 崇子

【はじめに】

昨今、働き方改革が叫ばれる中、医療に携わる医療系事務職も例外ではなく、少しでも超過勤務時間の短縮に向けた取り組みができないか、現状を分析し、対応策を立て、実施した結果、一定の効果を得ることが出来たので、報告します。

【超過勤務時間の現状把握】

スケジュールの目標管理ができず、チーム的業務が出来ていない状況でした。

超過調査(経理&財務)

		I: H29.4~H30.3												年間
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
A		4	5	9	0	0	2	13	20	8	6	29	34	130
B		3	0	2	2	1	0	4	2	0	1			15
C		17	4	12	7	6	6	7	8	4	4	24	25	124
D		29	11	4	6	5	4	7	7	4	7	57	70	211
E		43	55	40	37	27	27	47	34	32	33			375
合計		96	75	67	52	39	39	78	71	48	51	110	129	855
I: 平均		19.2	15	13.4	10.4	7.8	7.8	15.6	14.2	9.6	10.2	36.7	43	16.91

【超過勤務時間の削減に向けた取り組み①】

スケジュール表の作成・情報共有を行いました。

月次決算(6月分)日程表

月日	曜日	経理係	備考	部長予定
7月12日	木	伝票起票期限	期限厳守!	
7月13日	金	月次帳票、最終チェック(午後)		
7月17日	月	事務部長報告(午前) 月次決算(17時まで)		

(注意事項)

- ・削除伝票を起票する場合は、簡潔に理由の記載をお願いします。
 - ・反対・訂正仕訳を起票する際は、元の摘要の先頭に【修正仕訳(〇〇仕訳)】仕訳日 伝票No. 語尾に修正内容を追記して下さい。
- 例:【修正仕訳(〇〇仕訳)】2014/1/1 伝票No. x x x x 未払金買掛金の支払 科目修正

7月支払日(予定)

月日	曜日	経理係	備考	部長予定
7月4日	水	振替伝票起票期限(午前中)	期限厳守!	
7月9日	月	ファミバンクデータ送信	午後2時まで	
7月10日	火	住民税等	※厳行印 支払期限有	
}				
7月23日	月	振替伝票起票期限(午前中)	期限厳守!	
7月30日	月	ファミバンクデータ送信	午後2時まで 月末支払分	
7月31日	火	社会保険料、電話料等、物件費	※厳行印	

(注意事項)

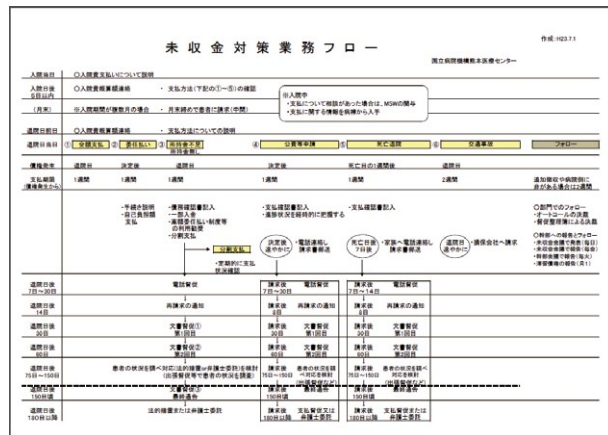
- ※支払額の追加、削除、変更が生じたときは経理係まで速やかに連絡願います。
- ※伝票の決裁期間を考慮のうえ、早めの起票をお願いします。



今後も知恵を出し合い、さらなる業務の省力化に取り組んでいきたいと思ひます!

【超過勤務時間の削減に向けた取り組み②】

未収金対策業務フローを活用し、期日到来患者には督促を実施して、日々完結するように努めました。



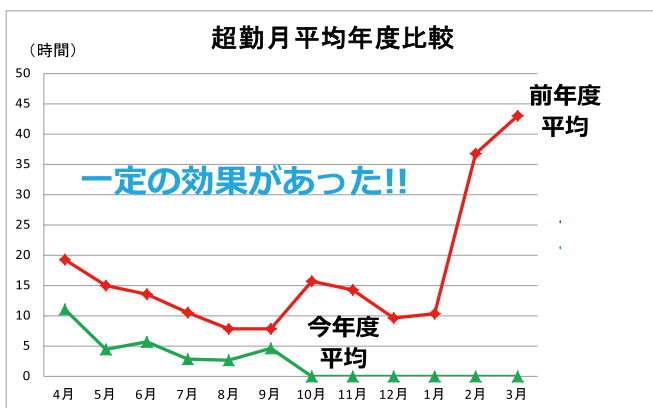
【取り組み後の超過勤務時間】

超過調査(経理&財務)

		II: H30.4~H31.3												年間
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
A		23	3	8	0	0	5							39
B		0	0	0	0	0	0							0
C		11	7	13	7	8	10							56
D		20	10	6	7	4	7							54
E		1	2	1	0	1	1							6
合計		55	22	28	14	13	23	0	0	0	0	0	0	155
II: 平均		11	4.4	5.6	2.8	2.6	4.6	0	0	0	0	0	0	5.17

【結果】

平成30年9月末時点ですべての月において前年度平均を下回る超過勤務時間になりました。



【考察】

- ▶情報を共有することで計画的に業務を進めることができ、チームワークも高めることができました。また、チームワークを発揮することで、仕事が楽しく、笑いのある職場環境を作ることができました。
- ▶結果としてわずかではあるが超過勤務時間を削減することができました。

研修医レポート

臨床研修医

野尻 拓矢



こんにちは。研修医1年目の野尻拓矢です。熊本生まれに熊本育ちで、久留米大学卒です。自分が熊本医療センターで働きたいと思ったのは、姉や義兄の勧めもありますが当院のスタッフの皆さんがとても患者さんを大切にしていると思ったからです。病院見学の際に、どのスタッフの方も処置ごとに患者さんに声かけをし、患者さんの表情を読んで対応していらっしゃいました。また、スタッフ同士でもすれ違う度に挨拶をし、ちょっとした雑談をされる姿もとても仲が良かったと感じました。

今実際に当院で働いてみると、患者さんの数も多く大変なことも多々あります。ですが、皆さんがそん

な大変な状況で、足を引っ張るだけの自分に対し根気よく丁寧に教えて下さいます。何か自分がうっかりとしている時でも、周囲の方から何度も何度も助けていただきました。特に、2年目の研修医の先生方には日々のちょっとした手技からCPA時の対応まで、数え切れない程助けていただきました。たった1年しか変わらないのにこんなに技術や知識が違うのかと驚いてばかりです。

そして、いつの間にか当院での研修も9ヶ月目となり、2年目の研修医の卒業と来年度の研修医の入職が近づいてきました。自分が今の2年目の先生方のような2年目研修医になれるとは到底思えませんが、少しでも先生方に近づけるように頑張っていこうと思います。また、来年度に入職する研修医にとって、今の2年目の研修医の先生方のように頼れる存在になれるよう、今年度の残りの研修医生活をより有意義なものとしていきたいと思います。

これからもご指導・ご鞭撻のほどよろしく御願い致します。

臨床研修医

友田 万莉



こんにちは、研修医1年目の友田万莉と申します。熊本大学医学部をこの4月に卒業し、熊本医療センターにて研修をさせて頂いております。研修を始め、はや11ヶ月が過ぎました。医師としての環境にようやく慣れ始め、日々たくさんのスタッフ、指導医の先生方に支えていただきながら精一杯がんばっております。私の医師としての一歩は呼吸器内科から始まりました。私はカルテの書き方もろくにわからず、何から何まで先生や先輩に聞きながらまずはなんとか体を慣らしていくところから始まりました。当院の先生や先輩方はとても優しく、根気よく教えてくださる方ばかりなので日々感謝しながら過ごしています。2年目の研

修医の先輩方は救急外来などで一緒に働かせていただくことが多々ありますが、いつも率先的に行動しており、自分も2年目の時にはそのような医療をできるような医師になろうと強く思いました。

2つ目の科は消化器内科を研修しました。消化器内科では最初に患者個人を全体的に見ることの大事さを学びました。一人一人の問題点、その原因、そしてその解決方法を考えることが患者全体を見ていることであり今後の医師として働いていく上での基礎としてとても大事なことを学ぶことが出来ました。

その後、外科、麻酔科、救急と研修をさせて頂いております。それぞれの科でさまざまな手技を学んでいます。少しずつではありますが、今後の研修に生かしていきたいと思っております。

これからもさまざまな科でご迷惑をかけると思いますが、精一杯がんばり、少しでも役に立てるよう努力していきたいと思っております。これからもご指導ご鞭撻のほどよろしく御願いいたします。



研修のご案内

第18回 診断と治療—最新の基礎公開講座— [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成31年1月12日(土)15:00~17:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長: たしま外科内科医院 院長

田嶋 哲 先生

演題: 「がん終末期の現状と課題」

- | | | |
|--------------------|----------------------|---------|
| 1. ホスピスの現場から | イエズスの聖心病院 院長 | 木村哲也 先生 |
| 2. 在宅の現場から | ひまわり在宅クリニック 理事長 | 後藤慶次 先生 |
| 3. がん診療連携拠点病院の現場から | 国立病院機構熊本医療センター腫瘍内科医長 | 磯部博隆 |

〔問合せ先〕 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通) FAX 096-352-5025(直通)

第197回 三木会(無料) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座1.0単位認定] [日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]

日時▶平成31年1月17日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

- | | | |
|--------------------------------|---------------------------|---------|
| 1. 「糖尿病とⅢ型高脂血症」 | 国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長 | 西川武志 |
| 2. 「腎臓内科医からみたSGLT2阻害薬の使い方と注意点」 | 熊本大学大学院生命科学部 腎臓内科学 講師 | 栗原孝成 先生 |

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕 国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長 西川 武志 TEL 096-353-6501 (代表) 内線5441

第239回 月曜会(無料) (内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成31年1月21日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

- | | | |
|--|------------------------|------|
| 1. 内科症例検討 | 診療で遭遇した興味ある症例の検討を行います。 | |
| 「第1症例 メトホルミンによる乳酸アシドーシスに対して緊急血液を施行して救命しえた2例」 | 国立病院機構熊本医療センター腎臓内科 | 島崎明子 |
| 「第2症例 オピオイド誘発性便秘」 | 国立病院機構熊本医療センター腫瘍内科医長 | 山本春風 |
| 2. ミニレクチャー「エビデンスに基づくCKD診療ガイドライン2018 ②」 | 国立病院機構熊本医療センター腎臓内科部長 | 富田正郎 |

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕 国立病院機構熊本医療センター教育研修部長 富田 正郎 TEL: 096-353-6501 (代表) FAX: 096-325-2519

第133回 総合症例検討会(無料) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成31年1月23日(水)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

- テーマ: 「頭頸部癌術後の化学放射線療法中に重度の低酸素血症を来した70代男性」 (70代 男性)
- | | | |
|-------|-----------------------|------|
| 臨床担当) | 国立病院機構熊本医療センター救急科医長 | 櫻井聖大 |
| | 国立病院機構熊本医療センター耳鼻咽喉科医長 | 上村尚樹 |
| | 国立病院機構熊本医療センター耳鼻咽喉科 | 高野若菜 |
| 病理担当) | 国立病院機構熊本医療センター病理診断科部長 | 村山寿彦 |

〔問合せ先〕 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通)

第100回 特別講演(無料) [日医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成31年1月31日(木)18:30~20:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長: 国立病院機構熊本医療センター副院長 大塚忠弘

「緑内障診療の現状と、熊大病院眼科医局の紹介」

熊本大学大学院生命化学研究部眼科学分野教授 井上俊洋 先生

〔問合せ先〕 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通)

2019
1月

研修日程表

国立病院機構熊本医療センター
地域医療研修センター

1月	研修センターホール	研修室
1日(火)		
2日(水)		
3日(木)		
4日(金)		
5日(土)		
6日(日)		
7日(月)		
8日(火)		
9日(水)	18:00~19:30 第114回 国立病院機構熊本医療センター クリティカルバス研究会(公開)	
10日(木)	8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー 「放射線治療について」 国立病院機構熊本医療センター放射線科医長 富高悦司 18:30~20:00 第43回 熊本がんフォーラム 「造血幹細胞移植の進歩と当院の現状」 国立病院機構熊本医療センター血液内科医長 河北敏郎	
11日(金)		
12日(土)	15:00~17:30 第18回 診断と治療 -最新の基礎公開講座- 「がん終末期の現状と課題」 [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] 座長 たしま外科内科医院 院長 田嶋 哲 先生 1. ホスピスの現場から イエズスの聖心病院 院長 木村哲也 先生 2. 在宅の現場から ひまわり在宅クリニック 理事長 後藤慶次 先生 3. がん診療連携拠点病院の現場から 国立病院機構熊本医療センター腫瘍内科医長 磯部博隆	
13日(日)		
14日(月)		
15日(火)		
16日(水)		
17日(木)	8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー 「当院における精神科救急への取り組み」 国立病院機構熊本医療センター精神科医長 橋本 聡	19:00~20:45 第197回 三木会(研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座1.0単位認定] [日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]
18日(金)		15:30~16:45 肝臓病教室(研2) 「脂肪肝とアルコール性肝障害」
19日(土)	8:50~ 第24回 国立病院機構熊本医療センター医学会	
20日(日)		
21日(月)		19:00~20:30 第239回 月曜会(内科症例検討会)(研2) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]
22日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	19:00~21:00 小児科火曜会(研1)
23日(水)	19:00~20:30 第133回 総合症例検討会(CPC) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] 「頭頸部癌術後の化学放射線療法中に重度の低酸素血症を来した70代男性」	
24日(木)	8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー 「小児プライマリケア」 国立病院機構熊本医療センター小児科医長 榎木 仁 14:00~15:30 第70回 市民公開講座 「あなたの腎臓を守るために」 国立病院機構熊本医療センター腎臓内科医長 梶原健吾 18:30~20:00 熊本県臨床細胞学会〈細胞診月例会・症例検討会〉	
25日(金)	19:00~21:00 摂食嚥下特別講演会 座長 熊本保健科学大学言語聴覚学専攻准教授 大塚裕一 先生 「誤嚥を頸部聴診法で予測しよう」 小笠原訪問看護ステーション言語聴覚士 大野木宏彰 先生	
26日(土)		
27日(日)		
28日(月)		
29日(火)		
30日(水)		
31日(木)	8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー 「皮膚科 感染症から学ぶ救急〜下の巻〜」 国立病院機構熊本医療センター皮膚科医長 牧野公治 18:30~20:00 第100回 特別講演 [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] 座長 国立病院機構熊本医療センター副院長 大塚忠弘 「緑内障診療の現状と、熊大病院眼科医局の紹介」 熊本大学大学院生命科学研究部眼科学分野 教授 井上俊洋	

研1~3 2階研修室1~3

※二の丸モーニングセミナーにつきまして、詳細はホームページ (<https://kumamoto.hosp.go.jp>) をご参照ください。

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)

発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号
TEL(096)353-6501(代)
FAX(096)325-2519
連携室直通TEL(096)353-6693
連携室直通FAX(096)323-7601